

製品名: CRF ウサギモノクローナル抗体

カタログ番号: AMRe87333

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000
分子量	Calculated MW:21 kDa; Observed MW:21 kDa

抗原情報

遺伝子名	CRF
別名	CRF; CRH1
遺伝子 ID	1392
SwissProt ID	P06850
免疫原	ヒト CRF の合成ペプチド

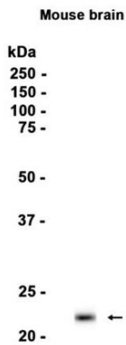
背景

この遺伝子は、副腎皮質刺激ホルモン放出因子ファミリーのメンバーをコードしています。コードされているプレプロタンパク質は

タンパク質分解を受け、成熟した神経ペプチドホルモンを生成します。ストレスに反応して、このホルモンは視床下部の室傍核 (PVN) から分泌され、副腎皮質刺激ホルモン放出ホルモン受容体に結合し、下垂体からの副腎皮質刺激ホルモンの放出を刺激します。このタンパク質の顕著な減少は、アルツハイマー病に関連して観察されています。常染色体劣性視床下部副腎皮質刺激ホルモン欠乏症は、低血糖や肝炎など、複数の、そして致命的となる可能性のある代謝的結果をもたらします。このタンパク質は、視床下部での産生に加えて、Tリンパ球などの末梢組織でも合成され、胎盤で高発現しています。胎盤において、これは妊娠期間と分娩・出産のタイミングを決定するマーカーです。分娩開始時にこのホルモンの循環レベルが急激に上昇することから、このタンパク質は代謝機能に加えて、分娩の引き金として作用する可能性があることが示唆されます。[RefSeq 提供、2015年11月]

研究分野

画像データ



CRF ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用してマウス脳組織抽出物のウエスタンブロット分析を行いました。